



- 立科小学校／午前9時～午前11時30分
電話 0267-56-3131 (呼)
- 立科中学校／午後2時～午後5時
電話 0267-56-1076 (呼)
- 立科町児童館／
午前 11時50分～午後1時40分
電話 0267-56-0303 (直通)

(担当 指導主事 中島一彦)

指導主事だより

教育委員会

なんだかうれしい

O先生の涙

2月6日、大雪の日の夕方のことでした。突然、研究室に駆け込んできたO先生。

いつも穏やかなO先生にしては、気持ちが高揚し、あくせくしている様子です。

「まあまあ、落ち着いて、どうしたのですか？何かありましたか？」声をかけ、椅子に座ってもらいました。

「学習発表会を今度の参観日にやろうって、子どもたちと話合って、今までの学習をまとめていたんです。うまくまとまり・・・でも時間が結構余ってしまい、私の方で子どもたちに提案したんですよ。一年間で自分が一番伸びたって思うことを、お父さんやお母さんに語ってみたらどうって。

そしたら みんなやる気になって、それぞれがじっくりと書き出してくれました・・・その内容を聴いていただきたくて・・・」と一気にO先生が語られます。

更に、「その内容を読んでいたら、涙が出てきてしまって」

そう静かに付け加えられたのです。

学級全員のカードを見せていただき、一人ひとりの頑張りを心にとめながらY君のカードに話がおよびました。

3年生でがんばったことや思い Y

ぼくが3年生でがんばったことは道徳です。3年生では先生や友だちの意見、話を聞いてよかったです。

3年生になって、先生や友だちの話を聞いていて、道徳が楽しくなりました。

そんな内容が書かれていました。

O先生は力を入れてきた授業に道徳をあげていました。教室のノートコーナーには全主題ごとのカードが用意され、1時間1時間の探究の歩みや、子どもたち自身の考えがまとめられ、学びの足跡がファイルとして残っています。日常的な授業の取り組みを大事に積み重ねていました。子どもたちの中に豊かなつながりを生み出そうとしたO先生。つながりの中で学びの主人公としての一人一人を押し上げていく教師の力が生まれていきました。子どもたちと、日々の暮らしを大切にしながら、どう生きることが、仲間にとっても自分にとっても嬉しくなる生き方なのか・・・そんな生き方を懸命に探り、一人一人の子どもたちと対話を重ねていました。

道徳的価値を押しつける授業ではなく、子どもたちが心の扉を自らが開こうとする姿をとらえ、仲間同士の関係を生み出そうとしている・・・。そう思われるのです。Y君の振り返りカードを読み返しながら、「先生や友だちの話を聞いて楽しくなりました」の一文に涙していくO先生。

Y君の学びのプロセスに立ち会い続けたO先生の姿が光ります。共に生きながらY君の気持ちに辿り着いていくO先生。

人間の価値、生命の尊さ、生きる態度・・・そういうものは暮らしの中で、時には苦悩に満ちた、挫折ばかりの生活の中で発見できるようなものなのかもしれません。それは子どもも教師も同じです。

合理的に手早く効率よく対処するというのではなく、あらゆるものを記号化することでもなく、「数値」や「記号」に還元されない子どもたち一人ひとりの生命の奥行きやいきさつを描き続ける教育でありたいと思うのです。その奥行きにふれたO先生の涙は、「子どもと共に歩もうとする教師」に変わっていくための大きなエネルギーのように思えました。



夢中になる!

たてしな保育園園庭で

※写真と本文の関係はありません